

予習・復習 IT用語

このコーナーでは、最新のものから昔から耳にしているものまで、IT関連用語を新旧取り混ぜてご紹介します。

SaaS

(Software as a Service)

ソフトウェアの提供形態の一種
ソフトウェアをネットワーク経由で
サービスとして提供すること

SaaSとはSoftware as a Serviceの略で、直訳すると「サービスとしてのソフトウェア」となります。「サーズ」と呼ぶのが一般的ですが、「サーズ」と呼ぶ人もいます。

簡単にいうと、ソフトウェアをネットワーク経由でサービスとして提供することです。よく似たものに1990年代の終わりに注目されたASR(Application Service Provider)があります。ASRはデータセンターに置かれたアプリケーションをインターネット経由で利用した分だけ料金を支払うというものでした。しかし通信料が高かったことや利用者自身がカスタマイズできなかったことなどから、期待されたほど普及しませんでした。

ところが、近年の高速通信回線の低価格化、ハード/ソフトのコスト削減と運用管理負荷低減の要請、Web2.0技術などを背景に、ネットワーク経由でソフトウェアが利用できるSaaSが注目されてきました。SaaSはASPの進化したものと捉えられています。

さて、SaaSを利用した場合とパッケージソフトを購入し自社で運用した場合を比較すると、SaaSには コスト削減、導入の容易さ/迅速さ、利用者側で運用管理の必要なし、利用者自身でカスタマイズ可能 - などのメリットがあります。経産省では中小企業のIT活用底上げの一環としてSaaSを勧めていますし、総務省と経産省は安全性、利便性などの観点からSaaSの各種ガイドラインを策定しています。

最近、ソフトウェアだけでなく、CPU、ストレージ、データベースなどのコンピュータ資源をインターネット経由でサービスとして利用するクラウド・コンピューティング(Cloud Computing)という概念が新たに登場しました。SaaSもこの新しい潮流のなかの一つとして捉えていくべきでしょう。

クラウド：インターネットを雲に例えたもの

ストレージ

(Storage)

データを保管するシステムや
装置のこと

ストレージとはデータを保管するシステムや装置のことです。一般には「磁気ディスク装置(ハードディスク)」、「磁気テープ」、「光ディスク」を指します。記憶容量が大きく、電源を切ってもデータが消えないという特徴があります。

ストレージはサーバと接続して使用されますが、接続方法によっていくつかに分類されます。サーバとストレージを直結したDAS¹、LANで接続したNAS²、広帯域のファイバチャネルで接続したSAN³です。DASは導入・運用が簡単でコストが安いのが特徴ですが、接続しているサーバ経由でしかアクセスできず、サーバが増えるに従って管理負荷が増えてしまいます。

一方、NASやSANはネットワーク型で、複数ストレージの共用と一元管理、バックアップの効率化が可能です。NASはLAN接続であるため導入が容易ですが、LANに負荷がかかることから一般に大容量データの処理は苦手としています。SANは光ケーブルなどを用いてLANとは別のネットワークを構築するため、業務ネットワークに負荷をかけることなく、信頼性が高く高性能なシステムを提供できます。しかし、初期導入コストが高く構築技術も必要です。

ネットワーク化により、ストレージとサーバの組み合わせの選択肢が増え、より低コストで高性能な環境が構築できるようになったといえるでしょう。

ストレージに関してはここ数年、災害対策としての遠隔バックアップや、ストレージ管理の効率化を目的とした仮想化、コンプライアンス対策としてデータ保存の信頼性や参照速度の向上を目指したILM(Information Lifecycle Management)などが注目されており、単なるデータ保管装置を超えた様々なサービスが提案されています。

1 DAS: Direct Attached Storage
2 NAS: Network Attached Storage
3 SAN: Storage Area Network